

◎ 連合会だより

7月30日から3日間、熱海でトップセミナーが開かれた。毎年、この時期、地域の事業団は、草刈りを始め外回りの仕事の最盛期、そして、6月から8月の全国自治体集中行動と1年で一番忙しい。7回目を迎える今回のセミナーは、忙しい中、参加してよかったといえるものとなった。

セミナーは、永戸理事長の「第2次中期計画」についての講義を皮切りに、古村センター事業団の事務局長の「よい仕事の到達点」の講義で締めくくられた。岡田弁護士「オウム事件」、中西横浜市大助教授「人間観」、菅野協同総研副理事長「法制化」、武居琉球大学教授「高齢者の健康」福井病体生理研究所室長「ヒノキチオール」、各講師の熱の入った講義は、周りの人といつまでも語り合いたくなる内容で、食事後、参加者がいくつもの輪をつくり、2次会に指定されたわたしたちの部屋

701号室は、参加者に占拠されつづけた。

7月、全国的な会議が新たな試みでもたれた。その一つが、7月9、10日東北から始まった地域事業団とセンター事業団との合同のブロック会議である。すでに、九州、中四国と会議はすすめられ、8月には、関西でも予定されている。センターと地域事業団との距離がせばまり、共通の議論の土俵が見えてきた。とりわけ、当面の焦点としている高齢者協同組合では、センター事業団の若手のそとに向かった幅広い、元気いっぱいの活動は、地域事業団の経験のある幹部をびっくりさせ、活動の飛躍のバネとなってきている。

そして、高齢者協同組合の全国推進のために、高齢者協同組合講座を開くこととし、中四国の8月19日を始めとして計画がたちはじめた。

鍛谷 宗孝（労協連合会・専務理事）

◎ センター事業団だより

一昨年の冷夏を彷彿させる雨続きで、農作物の心配していた途端、全国的な猛暑に襲われ、海恋しくなり、つくづく人間は身勝手なわがままになってしまったと、自戒を込めて思う毎日である。

第4次となる自治体集中行動は、ここへきて盛り上がりを見せ高齢者協同組合づくりを軸とした動きが目的意識化している。愛知・三重など地域事業団の取り組みが前進する中で、多くの地域で多くの組織・個人の運動と結ぶ動きが進みはじめた。熊本の未来サービスなどの高協（労協）づくり、宮城での高齢者の企業組合づくりなど、直接コミットするような動きが出ており、我々の主体性が問われる。東京では、ヘルパー講座の閉講式が行なわれ、また新たな感動があった。その他、中四国での森林組合や居酒屋などとの接点が生まれたり、東北で酪農家の集団が労働者協同組合をつくりたいと言ってきたりと、時代の要請と可能性の広がりが見え上がっている。大きな流れの本流をしっかりと見据え、ここに身を置いた我々の事業・運動が重要になってきている。ここが今回の

自治体集中行動の焦点であり、「非営利・協同の大連合」を自らが創造していく出発点になるのだと思う。高協づくりは、9月3日設立を間近にひかえた沖縄では、心機一転の奮闘を竹森本部長が表明し、佳境に入った。この流れを全国的な運動で後押ししなければ……。

7月16・17日病院関連、26・27日生協関連の会議が連合会と合同で開かれた。今後食・農業関連、建設関連と、今年度から始まった事業群ごとの会議が、連合会主導で進められる。特に病院関連では、センター東京の1年間のよい仕事の見直し・改革が地域事業団に大きな刺激を与え、道筋が鮮明に。センターも「盛岡赤十字水準」を定め、ここへ向けた全国的な改善・改革を全組合員経営から「共感の経営」への発展基礎として取り組みが始まる。ますます大事になる盛岡での教訓化と実践。これをまとめるのは横山常務と私となる。悶々としながらトップセミナーでの報告づくりに苦悶しつつ、大きな躍動に胸が踊る。

古村 伸宏（労協センター事業団・事務局長）